

世界市民の育成を目指す日本語教育実践
——『かもめ食堂』（2006）を題材に——

A Japanese Language Education Practice to Cultivate World Citizens:

By Means of *Kamome Shokudô* (2006)

山崎智子 東京福祉大学

YAMAZAKI Tomoko, Tokyo University of Social Welfare

1. 活動目的

- ・「複言語複文化能力（Council of Europe 2020）」及び「民主的文化のための能力（Council of Europe 2016）」を備えた世界市民の育成を目指す日本語教育実践
- ・多様な背景を持つ学生達が国際社会に生きる市民として自覚し、他者を尊重する姿勢を日本語教室に於いて涵養することの試み

2. 対象学習者

- ・N1 取得目標の上級クラス（2019）
- ・或る大学の学部1年生：計18名
インドネシア（3）、中国（1）、ベトナム（8）、ネパール（6）

3. 授業実践

- ①導入1：学習目標（「異文化の中の自文化を見つめる」、「異文化の中で何が大切であるか」）の確認、ワークシート（WS）の説明、作中のフィンランド製品の紹介
- ②導入2：作品中に出て来る語彙や表現の確認（使用教材：写真、絵、地図、歌、小道具）
- ③映画『かもめ食堂』（荻上直子監督、2006）DVD（株式会社バップ）上映（3回に分けて完結）
教材としての使用理由：学生達が異文化の中で暮らしている主人公を自分に投影し、異文化の中にいる学生自身と自文化を見つめられるのではないかと判断したため

表 『かもめ食堂』（2006）鑑賞前と鑑賞後の活動内容

	鑑賞前	鑑賞後
1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・小道具の確認（発表者⇒学生⇄学生） ・注目すべき点（発表者⇒学生⇄学生） ・WS 記入部分の確認（発表者⇄学生⇄学生） （登場人物関連図、語彙・表現のメモ、質問、要約） 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現の確認（発表者⇄学生⇄学生） ・小道具の確認（発表者⇄学生⇄学生） ・WS 記入と確認（発表者⇄学生⇄学生） ・意見・感想を出し合って全体討論（WD） （発表者⇄学生⇄学生）
2回目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の話の内容を説明（発表者⇄学生⇄学生） ・注目すべき点（発表者⇒学生⇄学生） ・WS 記入部分の確認（発表者⇄学生⇄学生） （登場人物関連図、語彙・表現のメモ、質問、要約、3回目は感想文） 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現の確認（発表者⇄学生⇄学生） ・小道具の確認（発表者⇄学生⇄学生） ・WS の記入と確認（発表者⇄学生⇄学生） ・意見・感想を出し合って WD （発表者⇄学生⇄学生） ・WS に感想を記入（学生）

- ④日本フィンランド外交関係樹立100周年記念イベント（2019）の紹介：
駐日フィンランド大使館にて親善大使として選ばれた女優小林聡美のインタビュー記事、ムーミン展、北欧展
- ⑤独自教材「映画『かもめ食堂』漢字・文法FB」シートを解き、答え合わせ
- ⑥グループ討論（GD）、発表
テーマ：「日本に住んで、異文化の世界にいると思うとき、自文化の世界にいると思うとき」、
「主人公は異国で日本料理店を営んでいて、何故皿など日本製の物が使われていないのか」

4. 結果と考察

独自教材を準備し活用したことで、学生達は鑑賞後に物語の内容を再確認しながら自身の感想を纏め、それを基にWD及びGDを円滑に進めることができた。また、発表者はWSの記入内容を見て復習教材を作成し、復習すべき事項を学生毎に明確化し、学習の筋道を示すこともできた。同作品を通して、学生達が自身の見解を他者に向けて発信する中で、読み手に配慮して書く力と同時に、書き手に配慮して話す力も養うことができた。

5. 結論

同作品について学生達が書いた作文及び話した議論からは多様な視点が伺えた。一例を挙げると、「国籍は関係なく、人として困っている人がいたら助けてあげるという行為は、良い人間関係の構築ではないか」という主張があった。学生達は、日本語使用を通して、それぞれに世界市民としての自己を形成している。

参考文献

- Council of Europe (2016) *Competences for Democratic Culture: Living together as equals in culturally diverse democratic societies*, Council of Europe Publishing, Strasbourg. <<https://rm.coe.int/16806ccc07>> 2021.08.17 閲覧
- Council of Europe (2020) Chapter 4 The CEFR illustrative descriptor scales: plurilingual and pluricultural competence, *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment - Companion Volume*, Council of Europe Publishing, Strasbourg, pp.123-128. <<https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages>> 2021.08.17 閲覧

謝辞 Toshiba International Foundation 及び EAJS funds からの助成に感謝の意を表す。